

三重・中林・中道遺跡

なかばやし なかみち

- 1 所在地 三重県一志郡三雲町中林・中道
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)一〇月～二〇〇二年一月
- 3 発掘機関 三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 東 敬義・瀬野弥知世
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 八世紀、一三世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中林・中道遺跡は、三雲町をほぼ東西に流れる三渡川左岸、標高二・〇mの微高地上に立地する。調査は一般国道二三号中勢道路建設事業に伴うものである。



(松 阪)

調査対象範囲をAからDまでの四地区に分けて、二〇〇一年度から二〇〇三年度までの予定で調査を行っている。今回報告する木簡が出土したのは、二〇〇一年度に調査を実施したB地区で、調査面積は一〇四

〇㎡である。

確認した遺構は、奈良時代と中世とに分けられるが、ほとんどが中世に属するものである。主な遺構は、奈良時代の井戸のほか、鎌倉時代の掘立柱建物・井戸、室町時代の溝などがある。

今回報告する呪符木簡は、この室町時代の溝の最下層の粘土層から出土した。この溝は調査区の西端に位置し、規模は幅二・八m深さ〇・八mである。相伴遺物には、まとまった量の土師器鍋・皿、青磁、常滑甕、漆器椀がある。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「＜蘇民将来子孫門」

・「〔^{〔聴カ〕}々々如律令☆」

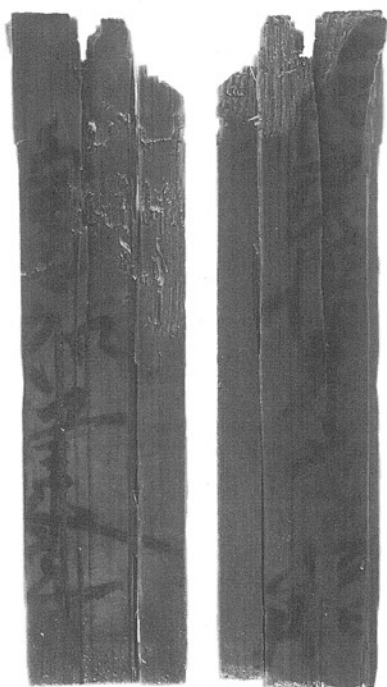
154×37×4 032

上端は一部がかるうじて原形をとどめる。下端および左はほぼ完存。右側面は全面的に欠損している。中央部分に縦方向の割れがみられる。表面は上部がやや傷んでいるため、「蘇」(字体は「蘇」)の字の一部が欠落している。

9 関係文献

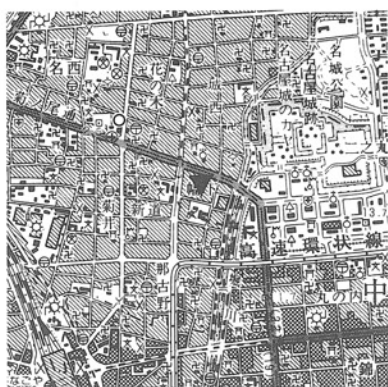
三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号 中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報XIV』(二〇〇二年)

(東 敬義・瀬野弥知世)



愛知・貞養院遺跡
ていよういん

- 1 所在地 愛知県名古屋市西区幅下一丁目
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)一月～三月
- 3 発掘機関 名古屋市教育委員会・名古屋市見晴台考古資料館
- 4 調査担当者 水野裕之
- 5 遺跡の種類 近世城下町跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(名古屋北部)

貞養院遺跡は、台地上の名古屋城三之丸の西側にあたり、堀川を挟んだ沖積低地に立地している。名古屋城下町遺構が主体の遺跡で、当時は武家地と町地となっていたところである。遺跡のすぐ南側には、寛文三年(一六六三)尾張藩主二代光友のときに計画され、江戸時代の上水道であった「巾下水道」の遺構が検出された幅下遺跡が隣接している。